

平成11年度

文芸を描く

泉鏡花などの挿絵のうち、あまり出品されなかったものを展示した。

会期 平成11年4月16日(金)～平成11年6月20日(日)(開館日数:54日)

総入館者数 6,988人(一日平均:129人)

出品作品

【前期】4月16日(金)～5月16日(日)

口絵:「三枚續(泉鏡花著『三枚續』)」「無憂樹(泉鏡花著『無憂樹』)」「式部小路(泉鏡花著『式部小路』)」「舞の袖(泉鏡花著『舞の袖』)」「起誓文(泉鏡花著『起誓文』)」「風流線(泉鏡花著『風流線』)」「戀女房(泉鏡花著『戀女房』)」

下絵:「春宵怨」「鷺娘」「田舎源氏」「たけくらべの美登利」「美登利 霜の朝」「美登利 つり忍」

【後期】5月21日(金)～6月20日(日)

口絵:「黄金窟(徳田秋聲著『黄金窟』)」「一夜画工(松居松葉著『一夜画工』)」「白波女(小栗風葉著『白波女』)」「横恋慕(小栗風葉著『横恋慕』)」「金忠輔(山田美妙著『金忠輔』)」「人鬼(山田美妙著『人鬼』)」「勝鬨(渡邊霞亭著『勝鬨』中編)」「渦巻(渡邊霞亭著『渦巻』)」「百合子(菊池幽芳著『百合子』)」「小ゆき(菊池幽芳著『小ゆき』)」「藤乃の巻(菊池幽芳著『月魄』)」

下絵:「春宵怨」「鷺娘」「田舎源氏」「たけくらべの美登利」「美登利 霜の朝」「美登利 つり忍」

関連記事

平成11年4月1日・15日／5月15日 鎌倉市鎌倉清方記念美術館 「文芸を描く」(広報かまくら)

平成11年5月7日 泉鏡花と名コンビ清方の小説挿絵を公開(神奈川新聞)



リーフレット

追憶の風俗

清方の関心が高かった、明治・大正期の東京下町の風俗に取材した作品の下絵を中心に展示した。

会期 平成11年6月25日(金)～平成11年8月31日(日)(開館日数:55日)

総入館者数 3,794人(一日平均:69人)

出品作品

【前期】6月25日(金)～7月25日(日)

「夏の思い出」「砂浜少女」「ゆかた」「柳の下に涼む娘」「子供二人」
下絵:「夏の女客」「のれん(夏姿)」「軽小橋」「佃の渡」「明石町」「築地河岸」「夏ざしき」「築地川界限 明石町河岸」「讚春(小下絵)」

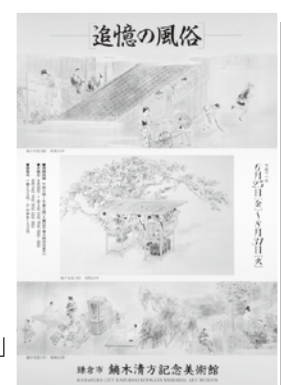
【後期】7月30日(金)～8月31日(火)

「朝夕安居」「柳の下に涼む娘」「夕立雲」
下絵:「客間」「夏の女客」「大川端」「十一月の雨」「船住居」「氷店」「金魚屋」「夏ざしき」「蜆」「南葛飾早春」

関連記事

平成11年6月15日／7月15日 鎌倉市鎌倉清方記念美術館 「追憶の風俗」(広報かまくら)

平成11年8月1日 鎌倉市鎌倉清方記念美術館 「追憶の風俗」(新美術新聞)



リーフレット

特別展 清方の描いた女性たち－雑誌『苦楽』の表紙にみる

四季折々の女性の風俗を、雑誌『苦楽』の表紙絵から紹介した。

会期 平成11年9月10日(金)～平成11年11月28日(日)(開館日数:66日)

総入館者数 9,534人(一日平均:144人)

図録 『特別展 清方の描いた女性たち－雑誌「苦楽」の表紙に見る－』

関連事業

【講演会】第1回 鏑木清方の画風－その人と作品－

第2回 挿絵・口絵・表紙絵について

特別展「清方の描いた女性たち

－雑誌『苦楽』表紙にみる－ 特別観覧

【講師】倉田公裕(美術評論家・専門委員)

【日時】第1回平成11年9月2日13:30～15:00

第2回平成11年9月9日13:30～15:00

出品作品

【前期】9月10日(金)～10月17日(日)

「舞妓」	昭和22年	絹本着色	画帖二冊	28.4×23.3	個人
「牡丹」	昭和22年	絹本着色	画帖二冊	27.2×25.0	個人
「神田祭」	昭和22年	絹本着色	画帖二冊	26.5×24.0	個人
「菊」	昭和22年	絹本着色	画帖二冊	29.4×27.0	個人
「雪」	昭和22年	絹本着色	画帖二冊	29.2×27.4	個人
「松ノ内」	昭和23年	絹本着色	画帖二冊	29.2×26.7	個人
「箱庭」	昭和23年	絹本着色	画帖二冊	28.8×27.6	個人
「芙蓉」	昭和23年	絹本着色	画帖二冊	29.1×27.5	個人
「堀川波の鼓」	昭和24年	絹本着色	軸	28.8×27.5	個人
「たけくらべの美登利」	昭和24年	絹本着色	軸	29.7×27.4	個人

「嫁ぐ人」「早春」「朝涼」「神田祭(下絵)」「芙蓉(下絵)」「菊(下絵)」「箱庭(下絵)」

【後期】10月22日(金)～11月28日(日)

「湯の宿」	昭和22年	絹本着色	画帖二冊	27.4×25.6	個人
「囊」	昭和23年	絹本着色	軸	28.7×27.4	個人
「王子詣」	昭和23年	絹本着色	画帖二冊	29.4×27.1	個人
「春雨」	昭和23年	絹本着色	画帖二冊	28・9×27・5	個人
「菖蒲湯」	昭和23年	絹本着色	画帖二冊	27.9×27.1	個人
「宇治の蜩」	昭和23年	絹本着色	画帖二冊	29.2×27.2	個人
「ふた昔」	昭和23年	絹本着色	画帖二冊	29.7×27.5	個人
「紅梅屋敷」	昭和24年	絹本着色	画帖二冊	29.7×27.4	個人

「一葉女史の墓」「孤児院」「ためさるゝ日(右幅)」「囊(下絵)」

関連記事

平成11年8月1日・15日／9月15日／10月1日・15日／11月15日

鏑木清方記念美術館 特別展「清方の描いた女性たち」(広報かまくら)

平成11年10月9日 案内係に学芸員 鎌倉 鏑木清方記念美術館(湘南毎日新聞)



収蔵品展

収蔵品の中から展示する機会の少なかったものを展示した。

会期 平成11年12月3日(金)～平成11年12月19日(日)(開館日数:15日)

総入館者数 901人(一日平均:60人)

出品作品

「清子四歳像」「有卦自祝之絵」「芸妓」「春や昔」「カルメン」「鍾馗」
「菊慈童」「雨華庵風流」「二人静」「小楠公弁の内侍を救う」「喜寿」
「街頭風景(下絵)」「三菱銀行(下絵)」「蕪(下絵)」

関連記事

平成11年12月1日 鎗木清方記念美術館 「収蔵品展」(広報かまくら)



リーフレット

羽子板展

清方の描いた「明治風俗十二ヶ月」を押絵にした羽子板を展示した。

会期 平成12年1月5日(水)～平成12年2月13日(日)(開館日数:35日)

総入館者数 5,090人(一日平均:145人)

出品作品

「白梅」「風景」「鉢植の梅松」「明治風俗十二ヶ月(押絵羽子板 永井周山作)」
「ためさるゝ日(押絵羽子板)」「春の夜のうらみ(押絵羽子板)」

関連記事:

平成11年12月15日／1月1日／2月1日

鎗木清方記念美術館 「羽子板展」(広報かまくら)

平成12年1月25日 鎗木清方記念美術館 「羽子板展」(博物館研究380号)

平成12年2月 7日 鎗木清方記念美術館で羽子板展開催(鎌倉朝日)

平成12年3月 鎗木清方記念美術館 「羽子板展」(ミセス3月号)



リーフレット

風景を描く

自然の風景や花鳥などに材をとった清方の作品の中から、風景画に
絞り作品を展示した。

会期 平成12年2月25日(金)～4月16日(日)(開館日数:42日)

総入館者数 4,379人(一日平均:104人)

出品作品

【前期】2月25日(金)～3月20日(月・祝)

「春の立場茶屋(金沢春景)」「僧房春蘭(牡丹の寺)」
「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「新大橋之景」「道行浮埒鳴」「雪空」「夕立雲」
「大和路の或る家」

【後期】3月25日(土)～4月16日(日)

「春の立場茶屋(金沢春景)」「僧房春蘭(牡丹の寺)」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」
「新大橋之景」「道行浮埒鳴」「雪空」「讃春(小下絵)」

関連記事

平成12年2月15日／3月1日 鎗木清方記念美術館 「風景を描く」(広報かまくら)



リーフレット